



金融危機と政権交代が行われた近年の東アジアの諸国では20世紀末に盛んだったジェンダー公正な政策の取り組みに新たな課題が立ちはだかっている。本シンポジウムでは韓国、台湾、ベトナムからジェンダーと政治を専門にし、ジェンダー主流化を進める実践的ポリティクスに貢献してきた専門家をお招きし、日本の研究者、女性運動家、政策担当者らとともにこれまでの成果を点検する。さらに、近年経済危機や保守政権のもとで女性たちが直面している新たな課題について互いに理解を深め、学び合うことを目的とする。

変動期の東アジアにおけるジェンダー主流化

現状と新たな挑戦

科学研究費補助金・基礎研究 A「グローバル金融危機以降におけるアジアの新興・成熟経済社会とジェンダー」(研究代表者・足立真理子) 科学研究費補助金・基礎研究 C「韓国のジェンダー主流化の取り組みにおけるナショナル・ベンチャーの研究」(研究代表者・申琪榮) Japan Society for the Promotion of Science, Grants-in-Aid for Scientific Research A (Marko Adachi), Japan Society for the Promotion of Science, Grants-in-Aid for Scientific Research C (Ki-yong Shin)

Gender Mainstreaming in East Asia in the Era of New Challenges

司会 Organizer

申 琪榮 Shin, Ki-young (お茶の水女子大学 Ochanomizu University)

報告者 Panelists

黄 長玲 Huang, Chang-Ling (國立臺灣大學 Taiwan National University)

「不安定な連携：台湾の保守政権とジェンダー主流化」

“Uneasy Alliance: Gender Mainstreaming under the Conservative Government in Taiwan”

金 京姫 Kim, Kyeong-Hee (韓国 中央大學校 Chung-Ang University, Korea)

「ジェンダー主流化再考：韓国を例として」 “Rethinking Gender Mainstreaming: South Korean Case”

ルオン・トゥ・ヒエン Lương, Thu Hiền (ベトナム ホーチミン国家政治行政学院 (HCMA), WiPPA)

「ベトナムにおけるジェンダー政策：その実績と課題」

“Gender Policies in Contemporary Vietnam: Achievements and Challenges”

三浦まり Miura, Mari (上智大学 Sophia University)

「新自由主義と母親：2000年以降の日本の労働・家族政策」

“Neoliberal Motherhood: Japan’s Labor and Family Policy since 2000s”

討論者 Discussant

伊田久美子 Ida, Kumiko

(大阪府立大学 Osaka Prefecture University)

討論者 Discussant

足立真理子 Adachi, Mariko

(お茶の水女子大学 Ochanomizu University)

定員：100名（事前申込要、先着順。IGSのHPにある申込フォームからお願いいたします）

2014. 1. 25 土 12:30 ~ 16:30

東京国立近代美術館 講堂 (地下鉄東西線「竹橋」駅徒歩3分)

The National Museum of Modern Art, Tokyo (“Takebashi” Station on Tozai Subway Line)